



「友よ 我等は」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

自反而縮雖千萬人吾往矣

学年主任 古屋 彰士

甲府東高校の生徒「である」ということに誇りをもってもらいたいが、そのことに安住してはならない。甲府東高校の生徒として何を「する」かが重要である。高校卒業に際し、東に来てよかったと一人一人が思えるよう、互いに高め合える「友」・「我等」でありたい。

7月の学年集会の折にそのような話をしました。しかし、時間の関係でお話しできないことがありましたので、紙幅をお借りしてここに記します。

『共に考えながら〇〇「する」』という関係性を深めていこうとしている皆さんに「中核的感情欲求」という考え方をご紹介します。(伊藤絵美『つらいと言えない人がマインドフルネスとスキーマ療法をやってみた』より)

一、愛してもらいたい。守ってもらいたい。理解してもらいたい。

二、有能な人間になりたい。いろいろなことがうまくできるようになりたい。

三、自分の感情や思いを自由に表現したい。自分の意思を大切にしたい。

四、自由にのびのびと動きたい。楽しく遊びたい。生き生きと楽しみたい。

五、自律性のある人間になりたい。ある程度自分をコントロールできるしっかりとした人間になりたい。

『共に考えながら〇〇「する」』といったとき、「我等」一人一人がこの5つの要素をどんな風に満たしていくかが重要だと思います。他者の中核的感情欲求をどのように満たしていけばよいでしょうか。一方で、自分自身の中核的感情欲求はどのように満たしていけばよいでしょうか。果たして自分自身の中核的感情欲求が満たされていない状況で他者の中核的感情欲求を満たすことが可能なのでしょうか。他者と自分が共に中核的感情欲求を認め合い、満たし合っていく関係性をどう作っていくか、私たち教員も含め、他者との関わり合いのなかで理解していくしかないのかな、と今は思っています。

皆さんの中核的感情欲求はどのような状況でしょうか。人との関わりが断絶されていませんか。できない自分に悲観的になっていないでしょうか。他者を優先し、自分を抑え込んでいませんか。気付かぬうちに自分や他者を追い詰めていませんか。自分勝手になりすぎていませんか。高校生活の折り返し地点にいる皆さん、少し立ち止まって自反してみるのもいいかもしれません。

10月の主な行事予定

- 10月 1日(水) 後期開始 服装調整期間(～11/30)
- 2日(木) ▲カセット
- 4日(土) 土曜講座(1・2年)
- 8日(水) ⑤⑥授業公開(全学年)※午前4時間・5分短縮授業 昼 SHR・清掃
神無月文化祭(放課後)
- 10日(金) ▲カセット
- 15日(水) ▲カセット
- 16日(木) 2年PTA 登校時マナーアップ運動
- 18日(土)・19日(日) 新人大会
- 20日(月) ⑥⑦ミニ大学(2年)
- 21日(火) ▼カセット 献血(希望者)
- 23日(木) 2年6組SOW南アルプス巡検
- 28日(火) 植花作業(放課後)
- 30日(木) 三者懇談(～11/7)
- 31日(金)・11月1日(土) 進研総合学力テスト





【2学年リレー通信】

今しか見られないもの

2年6組担任 吉岡 大地

今年は念願の大阪万博に行くことができた。万博は世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントで、各国の技術や文化、思想を紹介している。アジアで初の開催となった前回の大阪万博は1970年で私は生まれていない。1985年のつくば万博は2歳なので記憶にない。2005年に愛知で開催された万博「愛・地球博」は大学院入試やサークルの行事が忙しいことを理由にいかなかったことを後悔している。世界中で開催されていることを考えると次に日本で開催される万博はいつになるかわからないのでこの機会を絶対に逃したくないと思った。チケットを2か月前から購入し、パビリオン1か月前予約で日本館の予約を取ることができた。と、ここまでは順調だったがそれ以降の1週間前予約や3日前直前予約は競争率の高さに阻まれてしまった。ちょうどその日は21万人が来場し、それまでの過去最高人数だったそう。長蛇の列を潜り抜けて1時間程度かけて入場。順番待ちをして、予約できていなかった大阪ヘルスケアパビリオンに、何とか入ることができた。そこではノーベル医学賞を受賞した山中伸弥教授のiPS細胞を利用したiPS心筋シートが展示されていた。自らぴくぴく動くシートを見て、思わず叫びそうになった。もしかしたら叫んでいたかも・・・10年前に読んだ『山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた』の本の中ではまだ発見段階だったものが、実用化されて目の前で動いている。いままで想像もしてなかったことが現実になっていくことにワクワクしてしまう。ちなみに1970年の大阪万博で展示されたもののうちで実用化されていないのは人間洗濯機だけだとか。それ以外にも火星の石に触ったり、北欧の食事を楽しんだりすることができた。大屋根リングなどのいろいろな建築物も見ていただけで面白かった。

ついでに大阪から帰ってきたあと、夜中の1時27分から始まった皆既月食も見ることができた。じっくり変化していく月の光をみながら、これも今しか見られないなぁと感慨にふけていた。赤銅色の月と土星の競演を楽しんで眠りについたのが3時30分。次の日は眠かったけど興奮が勝っていたように思える。

やっぱり本物を見ると心に栄養が補給される。みなさんにもそのような経験をたくさんしてほしい。そのチャンスを自分で探しに行ってもらいたい。今しか見られないものを逃さずにつかみにいってほしいと思う夏だった。

